

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(10月13日～10月19日)

2020年10月26日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- チハノフスカヤ元大統領候補が現政権に対する最後通牒を提示。(10/13)
- 調整評議会幹部会メンバーでミンスクトラクター工場のスト委員長であるディレフスキー氏、身の危険を感じたためワルシャワに出国。(10/13)
- ミンスクで花を持った女性たちによる行進及び学生による「若さの行進(10/17)」、全国で「パルチザンの行進」が実施された(10/18)。

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

- クウェートの新首長に即位したナワフ・アフマド・サバハ(Nawaf al-Ahmad Al-Sabah)氏に祝辞を送付。
(10/13 大統領公式サイト)

- ヴィテブスク州に出張。(10/13)

ジャガイモの栽培・加工・保存に関する最新技術を導入しているトロチンスキー缶詰工場を訪問。ジャガイモ生産の状況を視察。

(10/13 大統領公式サイト)

- ザシ集団安全保障条約機構(CSTO)事務局長と会談。(10/15)

ルカシェンコ大統領は「西側のパートナー諸国はベラルーシに対して活発になりすぎて、度を超している。」と指摘し、「国内状況の主要な原因は、絶対に外的要因だ。」と強調。

(10/15 ベラパン通信)

【内政】

- チハノフスカヤ元大統領候補が現政権に対する最後通牒を提示。(10/13)

10月25日までに、①ルカシェンコの辞任宣言、②路上での暴力の全面停止、③政治犯全員の釈放、の3つの履行を要求。もし履行されなければ、10月26日には全企業による全国ストライキ、すべての道路の封鎖、国営商店における販売の破綻が始まると警告。

(10/10 ベラパン通信)

- 調整評議会幹部会メンバーが弁護士を通じて、10日に国家保安委員会の拘置所で行われたルカシェンコ大統領との面会についてコメント。(10/13)

ババリコ氏の弁護士:「同面会是对話ではなかった。対話はあるが、それは面会参加者の釈放をはじめとした諸条件が満たされてからだ。」「面会では如何なる合意にも達しなかった。」

ズナク氏の弁護士:「同面会は交渉ではなく、意見の開陳であつた。ズナク氏は法的諸問題について意見を述べた。」「(ルカシェンコ大統領との面会后、)ズナク氏は遥かに条件の悪い別の房に移され、手紙のやり取りの状況も悪化した。」

(10/13 TUT.by)

- 調整評議会幹部会メンバーでミンスクトラクター工場のスト委員長であるディレフスキー氏、身の危険を感じたためワルシャワに出国。(10/13)

これにより、調整評議会幹部会メンバーは全員国外退去または拘束されたことになった。

(10/13 TUT.by)

- 司法省傘下の弁護士活動資格認定委員会が、ババリコ氏とコレスニコヴァ氏の弁護士の弁護士資格剥奪を勧告。(10/15)

(10/15 TUT.by)

●捜査委員会が、チハノフスカヤ元候補を国家安全保障の毀損への関与を呼びかけた罪で国際指名手配としたことを確認。(10/16)

(10/16 ベラパン通信)

●コレスニコヴァ氏の弁護団のメンバーであるサレイ氏が、釈放されて自宅にいたことが判明。

サレイ氏の隣人によると、警察が同氏の自宅を時折訪問して所在を確認しているとのこと。サレイ氏は 10 日に国家保安委員会の拘置所で行われたルカシェンコ大統領と抗議勢力との対話に出席していた。18 日、チハノフスカヤ元候補は自身のテレグラム・チャンネルで、サレイ氏が自宅軟禁とされたことは平和的抗議の成果であると強調。

(10/17 ベラパン通信、TUT.by)

●ミンスクで花を持った女性たちによる行進及び学生による「若さの行進」実施された。(10/17)

内務省発表によると、ミンスクでは 43 人が拘束された他、全国で 58 名が拘束された。また、抗議活動の取材に当たっていた TUT.by、ベラパン通信、Onliner などの独立系メディアの記者も拘束された。

(10/17 TUT.by)

●政権への支持を示すベラルーシ国旗を掲げた車両 100 台近くがミンスクからヴィテプスクに向けて走行。(10/17)

(10/17 TUT.by)

●ミンスクで「パルチザンの行進」が実施された。(10/18)

ミンスクでパルチザン大通りを中心に数万人が参加。治安部隊の車両数十台が集結し、市民に放水して拘束。市内では少なくとも6か所の地下鉄駅が閉鎖され、モバイル・インターネット通信が一部遮断された。ゴメリ、グロドノ、プレスト、ヴィテプスク、ジョジノ、ノヴォグロドクなど地方都市でも抗議活動。

(10/18,19 ベラパン通信、TUT.by)

●ミンスクで数千人の年金生活者が「英知の行進」を実施。(10/19)

ミンスクでは年金生活者が行進する後ろで親政権デモが行われ、一部で両者が鉢合わせとなった。グロドノで約 20 人、プレストで約 50 人の年金生活者が変革を求めて行進。警察と治安部隊が近くにいたが、デモ参加者は拘束されなかった。

(10/19 ベラパン通信、TUT.by)

【外交】

●リトアニアが、ベラルーシ外務省からの要求に応じる形で、既にベラルーシを出国した5名に加えて6名の外交官を召還。(10/12)

ポーランドは 10 月 9 日時点で 32 名の外交官を召還しており、10 日朝の時点でベラルーシに滞在している EU加盟国の大使はオーストリア大使とイタリア大使のみ。

(10/12 TUT.by)

●パーキンス駐ベラルーシ英国大使が 11 日にベラルーシを出国したことが判明。帰任日は未定。

(10/13 Naviny.by)

●スイスがEUの対ベラルーシ制裁に同調。(10/14)

同制裁は 13 日から履行されており、40 名のベラルーシ高官に対して口座凍結とスイスへの入国禁止を科す内容。

(10/14 ベラパン通信)

●カナダがベラルーシ高官 31 名を制裁対象に追加。(10/15)

英国と共同で導入済みの制裁第 1 段に続くもので、EUと米国が発動した制裁に同調するもの。

(10/15 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ元候補が、リトアニア、ラトビア、エストニアの外相と会談。(10/16)

会談では、「国民からの最後通牒」、制裁、及び 2021 年にラトビアとベラルーシが共催するアイスホッケー

世界選手権の延期またはボイコットについて議論。

(10/16 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●スタートアップ・ハブ「Imaguru」が 10 月初旬に行った調査によると、国内スタートアップの 45%がすでに国外移転を決定。

主な移転先はウクライナ、ポーランド、リトアニア及びその他のEU加盟国。また、国内スタートアップの大多数がベラルーシにおける政治・経済危機は1年以上続くとしており、移転が一時的なものであると解答したのは移転を決定した企業の 2%に止まった。

(10/17 ベラパン通信)

【対外経済】

●2016年1月に中国と共同で打ち上げられた通信衛星「ベルインテルサット1」を活用した「ベラルーシ共和国全国衛星通信・放送システム創設」プロジェクトが、技術的不備及び市場環境の変化のための不採算事業に。

ベラルーシ側が同プロジェクトの融資元である中国輸出入銀行に対して未返済融資約 2 億 3000 万 USD の返済免除を求めているものの、同行は拒否しているとのこと。

(10/16 TUT.by)

(了)